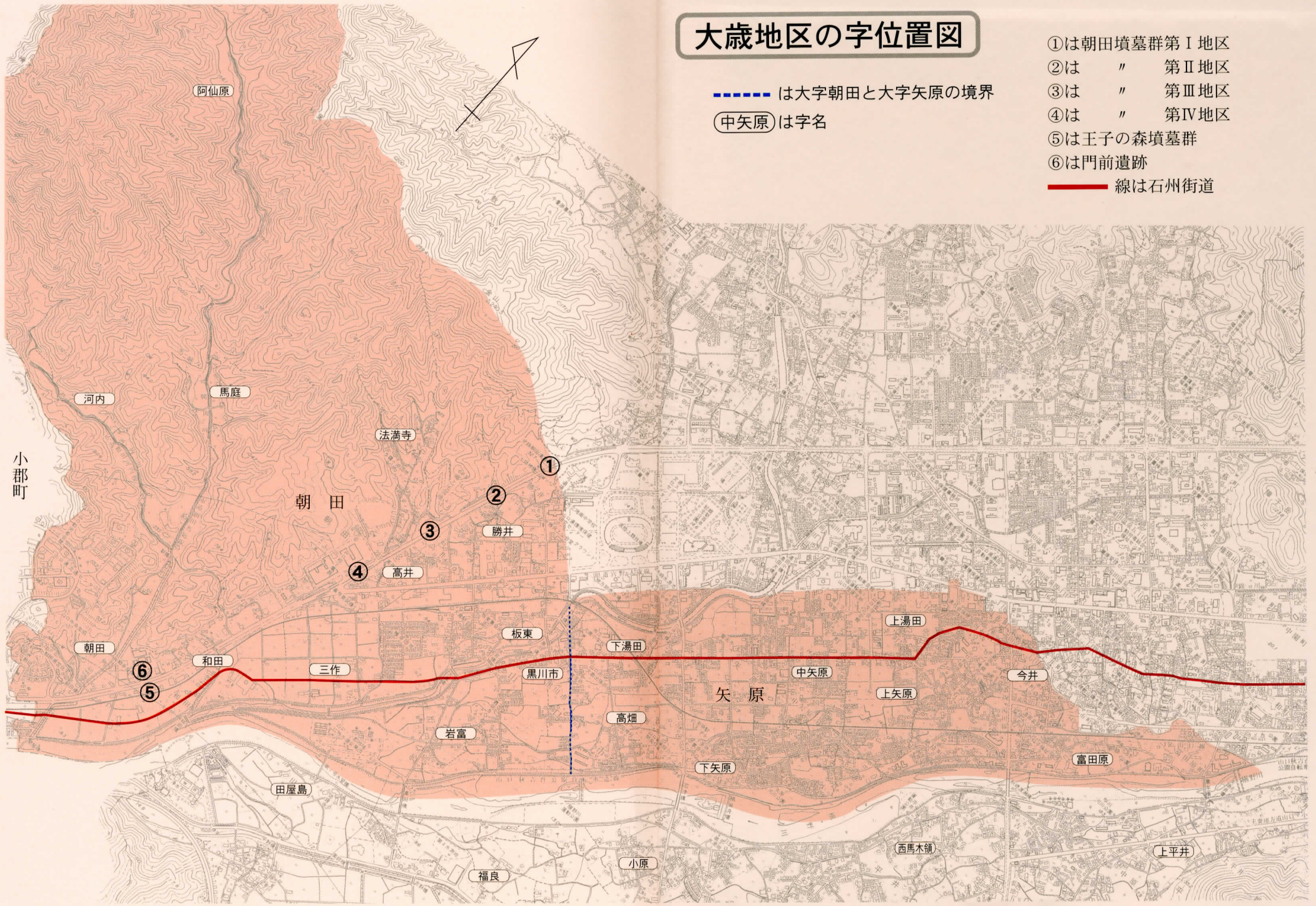


郷土大歳のあゆみ

大歳地区の字位置図

- ①は朝田墳墓群第Ⅰ地区
 - ②は " 第Ⅱ地区
 - ③は " 第Ⅲ地区
 - ④は " 第Ⅳ地区
 - ⑤は王子の森墳墓群
 - ⑥は門前遺跡
- は大字朝田と大字矢原の境界
 (中矢原) は字名
 ———— 線は石州街道



郷土大歳のあゆみ

人工知能の発展と社会への影響

2023年10月10日

監修 元山口県文書館副館長 広田暢久

題字 前大歳史談会長 平川英夫



人工衛星IKONOSから見た郷土

2002年8月23日 高度70,000メートルから撮影
(財団法人 リモート・センシング技術センター提供)



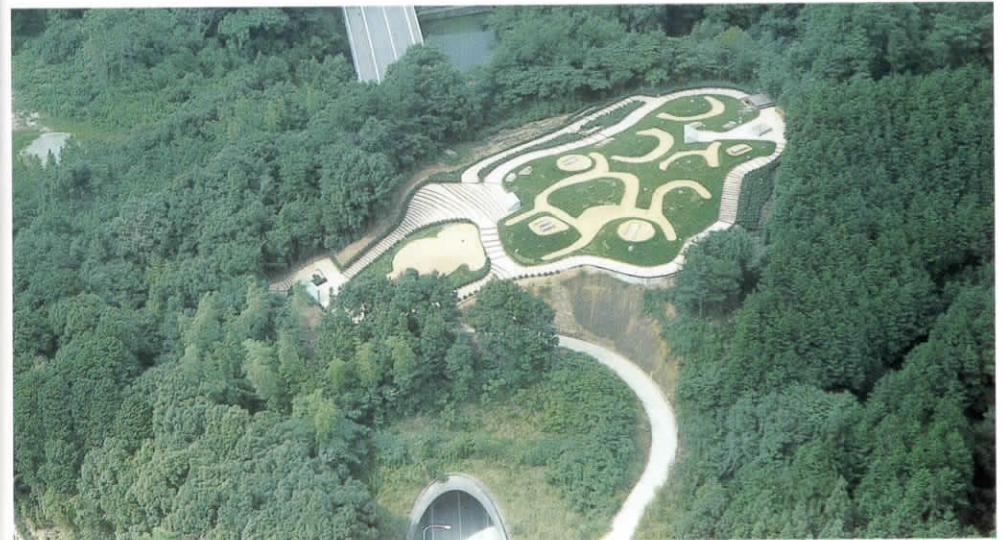
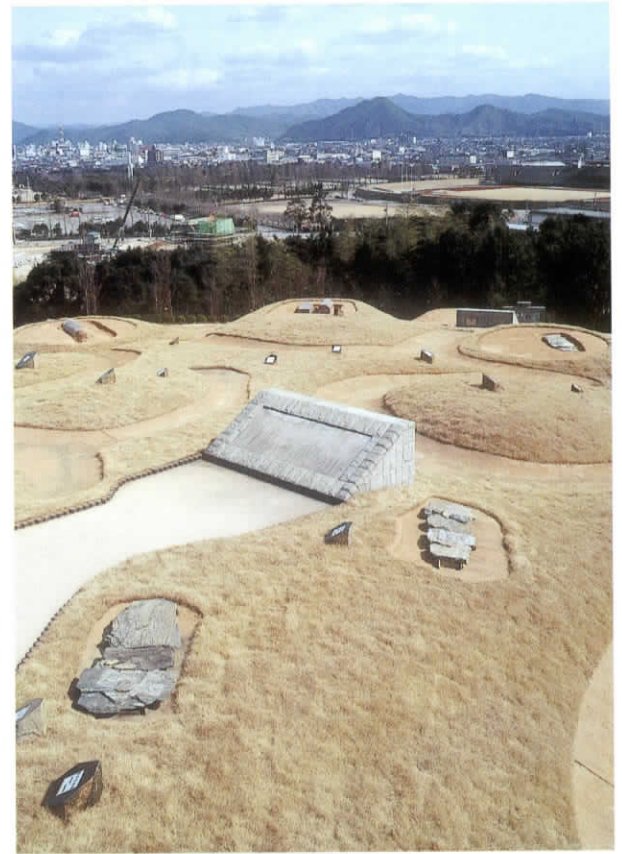
2000年の眠りから覚めた「弥生コブシ」の花

1983年種子が発掘され、12月に播種。翌年3月1日に発芽し、1993年4月3日にはじめてこの1輪が開花した。(本文29ページ参照)



上：榎野川から姫山を望む

下：高田橋

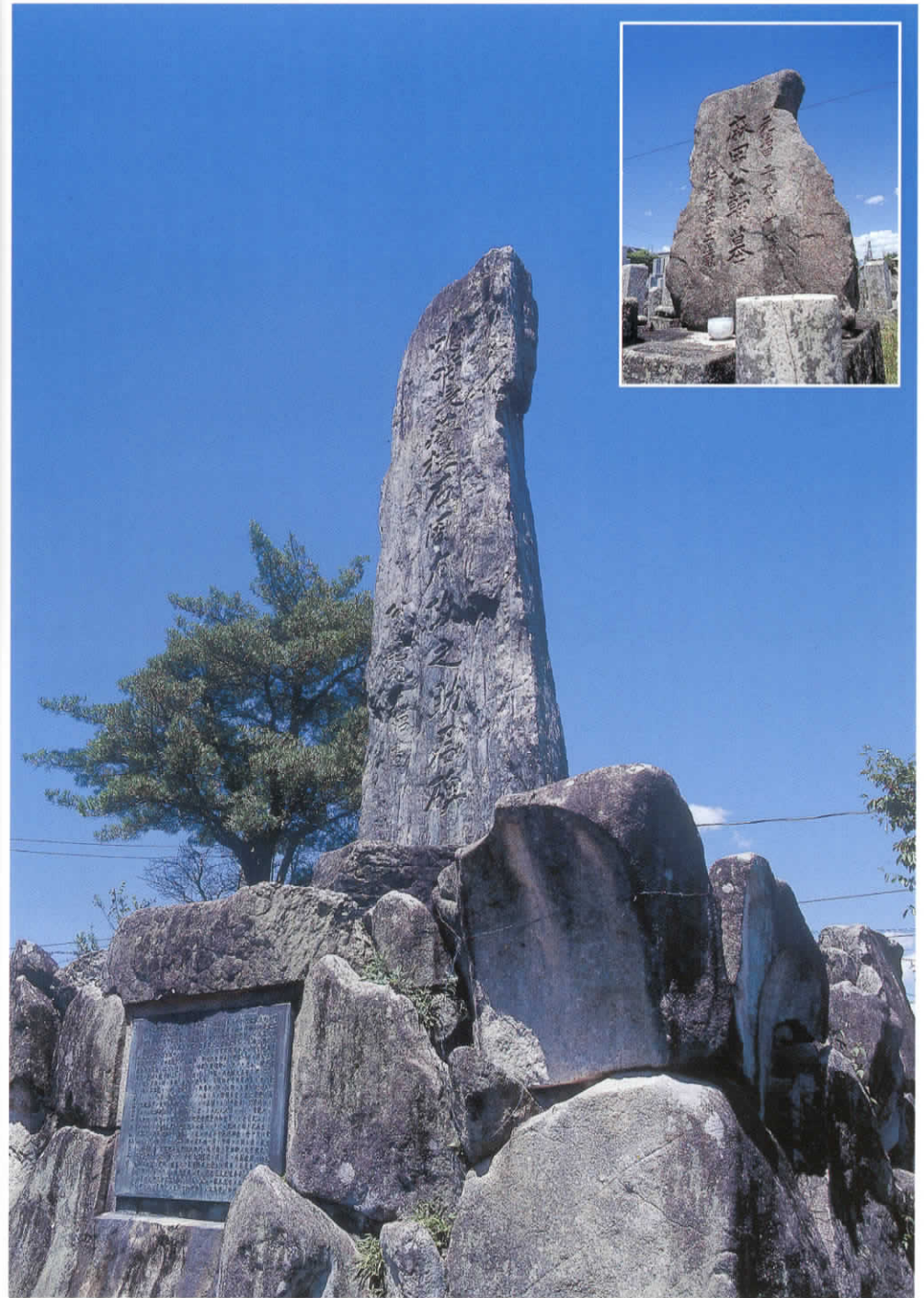


朝田墳墓群公園 (34ページ)



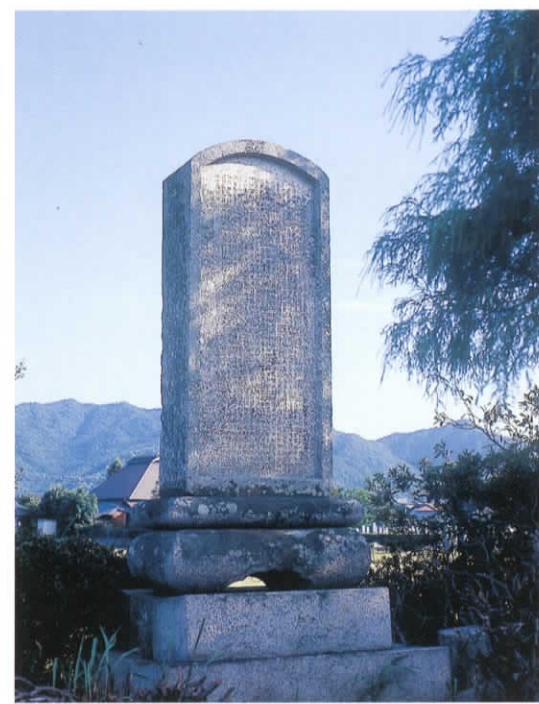
上：郷之尾堤

下：伊藤父子の顕彰碑 (130ページ)



周布政之助顕彰碑

上：周布政之助の墓 (396ページ)



上：大歳さま

下：大乘妙典宝塔〈子育て観音〉 (371ページ)

上：千代丸橋から望む

下：山下玄良顕彰碑 (409ページ)



上：大歳公民館

下：大歳小学校

お祝いのごとば

このたび、大歳地区としては初めての地区史「郷土大歳のあゆみ」を発刊されますことに、心からお喜び申し上げます。

歴史とは人類の文化の積み重ねであり、まさしく歩みであります。その中には、国における大きな変動や改革の歴史が存在します。また、地域には固有の歴史が存在し、今を生きる我々に多くのことを教えてください。

大歳地区は、かつては吉敷郡大歳村でしたが、太平洋戦争中の昭和十九年四月一日に他の二町六村とともに山口市と合併し、新たな出発をいたしました。その後はまさに、戦後の日本の再生とともに発展した訳であります。

このたびの地区史発刊は、多くの困難を乗り越え築かれてきた歴史と風土を見つめ直し、新しい時代に向け、よりよい大歳を創っていくこうとする決意と郷土愛の現れだと拝察いたします。戦後の混乱と合併後の市役所焼失等により、資料が乏しい中で編集にあたってられました「大歳史談会」の皆様方におかれましては、御苦労の連続ではなかったかと存じます。その成果として、高水準で親しみやすい地区史を見事に作り上げられましたことに深い感銘を受けております。

終わりに、本地区史の発刊により、大歳地区の皆様がますます郷土への愛着を深められますことを期待いたしますとともに、「郷土大歳のあゆみ」の新たなページが素晴らしいものとなりますよう祈念いたします。お祝いのごとばいたします。

郷土大歳のあゆみの発刊に寄せて

この度、大歳地区にあつては初めての地区史「郷土大歳のあゆみ」が発刊されましたことを心よりお喜び申し上げます。

大歳地区は、古い歴史と豊かな自然に恵まれており、現代社会のなかにあつては人情味豊かな地区であります。そして、地域は人と人とのふれあい、助け合い、思いやりの心によつて結ばれており、そのことが郷土への愛着を一層深めているものと思います。

ふるさとの歴史をたどるとき、ただ地区の歴史を知るだけでなく、何気なく接している文化の背景やふるさとづくりにかけて先人の思いや情熱を知ることができ、祖先や先輩達が困難を切りぬけてきた過去の体験を学ぶことによつて、郷土を愛する気持ちはさらに高まるものと考えます。

この地区史「郷土大歳のあゆみ」の発刊を契機とされ、大歳地区のよき伝統と美しい風土を地区民の皆さん方が受け継がれますよう願ひしてやみません。

終わりにあたり、この地区史「郷土大歳のあゆみ」の発刊を手がけられました大歳自治振興会、並びに執筆、編集に中心的な役割を担われました大歳史談会、さらには関係各位のご尽力に対しまして深く敬意を表し、大歳地区の限りないご発展をお祈り申し上げ、お祝いのあいさつとします。

大歳出張所長 林 正 則

発刊のことば

大歳の郷土史編纂は、永年にわたる地区住民の念願でありました。

大歳村の記録も戦後の混乱で散逸し、合併後も市役所の焼失で資料は大変乏しい状況にあり、昔話や古い生活経験を語る人も少なくなり、近代史も今記録しておかなければならない時期にあることは必定であります。

二十一世紀を契機に、大歳の歴史を永遠に継承するため、大歳自治振興会が事業母体となつて「大歳地区史編纂委員会」を発足させ、大歳史談会が中心となつて編集し、平成十一年十一月より三年の編纂期間を経て発刊に至つたものであります。

時代の流れは、地方分権を根底とする法定合併、少子高齢化、児童虐待、環境、福祉など、社会問題は山積し激しく変貌しています。そうした中で、私達の郷土を再認識し、現状を理解して、未来につながる活力あふれる大歳、うるおいある地域づくりのために、皆様方を始め多数の方々の方々の切望による「郷土大歳のあゆみ」が発刊となりますことを共に慶びたいと思います。

歴史は人を生み、人は歴史をつくるといわれています。歴史のなかから私達もつくられ、子孫もつくられようとしています。

「温故知新」の言葉が示すように、私達の祖先が過ちをおかしたり横道にそれたりしながら、困難を乗り越切つてきた貴重な苦心のあとを思いおこし、更に未来に向かつて限らない教訓をこの本から学び取られ、

生きていくための心の糧となればと、切に願うものであります。

特に、本書はより多くの皆様に味読されるよう親しみ易く、読み易い編集に心がけ、写真、イラスト、絵画等を多用し、視覚に訴える企画がなされております。

終わりに、本書の発刊にあたり、関係各位に対して深甚なる敬意と、謝意を表し、加えて大歳住民のご健勝とご多幸をお祈りいたしまして発刊の言葉といたします。

平成十四年十一月

大歳自治振興会
大歳地区史編纂委員会

会長 徳田博恭

目次

大歳の自然.....1

(一)位置(2) (二)面積・人口(3) (三)行政区画と地名(5) 小字(穂の木)(6) (四)地形(9) (五)気候(11)

(六)川と生活(13)

歴史.....19

一、原始・古代の大歳.....(20) 19

無土器文化の時代(20)／縄文文化の時代(22)／弥生時代の住居跡(24)／「弥生コブシ」の花(29)／古墳時代の首長墓(30)／朝田墳墓群と横穴墓(34)／律令制下の地方組織(40)／大和国家の地方支配・郷の誕生／条里制のなごり(43)／荘園の発生と榎野庄(47)

二、中世の大歳(鎌倉・室町時代).....(50) 50

東大寺の再建と造営料国(50)／保と庄(52)／榎野川の流れと村落形成(57)／大内氏の登場(59)／豪族 黒川五郎のこと(62)／東大寺勢力の後退(65)／寺門大訴事件と大歳(69)／宗像大宮司家と黒川館(73)／五の宮と福生寺(80)

三、近世の大歳(江戸時代).....(85) 85

1 村の成り立ち(85)

村の耕地・石高の変遷(85)／御蔵入と給領地(95)／戸口と百姓軒(97)／宰判制度と地下役人(100)／春定と租税負担(108)

2 農民の生活(112)

日々のくらし(112)／五人組(116)／村の損益勘定(118)／農民救済のしくみ(122)／庄屋の苦難(125)／水争い(128)／郷之尾堤への通水(130)／石州街道と黒川市(132)／天保一揆の打ちこわし(136)／湯田川の通船(140)／幕末動乱と鴻城軍の活躍(143)

四、近代の大歳(明治以降)

版籍奉還と村の再編(矢原・朝田村の復活)(151)／戸籍法施行と副戸長(152)／大小区制と戸長(154)／地租改正(156)／郡区町村編制法で村復活(矢原村・朝田村の連合)(161)／町村制施行と合併(矢原朝田村の発足)(163)／大歳村の誕生(166)／樺野川改修と県道整備(169)／農村その後の変遷(174)／駐在所の生い立ち(178)／寺小屋から大歳小学校(180)／交通の発展(186)／石津河原に競馬場(194)／大歳村の経済更生(196)／吉敷川の改修(199)／橋の整備(201)／大歳の産業(206)／山口市への合併(209)／戦時下の生活(212)

五、現代の大歳(第二次世界大戦の終結後)

(一) 戦後の混乱と新時代の幕開け(220)
敗戦の衝撃(221)／食糧事情の悪化(223)／農地改革(226)／インフレ下の経済事情(229)／新しい農業の発展(230)
(二) 地域の変貌(232)
住環境(232)／大歳の道路(232)／自転車道(233)／山口市営バスから防長バスへ(234)／国鉄山口線からJR山口線へ(235)／電話の開設からIT革命(237)／大歳の産業(238)／市の上下水道(245)
(三) 公共施設、その他の施設・団体(246)
(1) 市の施設と団体(246)／(2) 周辺市町村の公共団体(255)／(3) 県の施設(256)／(4) 国の施設(258)／(5) その他の施設・機関(261)

民俗

一、農村社会のうつりかわり

(一) 衣生活の変遷(270)
(二) 食生活の歴史(279)
(三) 農村の住居(291)
(四) 稲作・麦作と用具(304)
1 稲作(304)／2 麦作(320)

二、農村の年中行事

(一) 正月を迎える準備と正月行事(325)
(二) 春から初夏にかけての行事(329)
(三) 夏と盆の行事(333)
(四) 秋から冬にかけての行事(335)

三、暮らしの中の方言

宗教・民間信仰

一、宗教・信仰の変遷

1 古代の信仰(352)
2 仏教伝来(354)
3 神仏の習合(355)

- 4 キリシタン禁教と宗門改め (356)
- 5 国家神道と廃仏毀釈 (358)
- 6 神社・寺院の統合 (359)
- 7 まとめ (361)

二、大歳地区の神社・寺院

- 1 神社 (363) 「コラム」五ノ宮明神社の梵鐘は今 (365)
- 2 寺院 (368)
- 3 廃寺・堂庵跡 (370)

三、民間信仰

- 1 もりさま信仰 (374)
- 2 火の神・かまと神・荒神 (375)
- 3 水神・風神・地主神 (376)
- 4 大歳さま (377)
- 5 秋葉さま (377)
- 6 佐用姫様 (378)
- 7 宮島様 (379)
- 8 日参さま (379)
- 9 地藏信仰 (380)
- 10 馬頭観音信仰 (382)

- 11 庚申信仰 (382)
- 12 役行者信仰 「コラム」腰輪踊り (384)

四、新宗教関係施設

- 1 立正佼成会 (386)
- 2 創価学会 (386)
- 3 ほんみち (386)

人 物

- 石井東一 (390) 石村英雄 (391) 伊藤五兵衛 (392) 兼重暗香 (393) 杉山誉重 (394) 周布政之助 (396) 光澤即明 (399) 田中平四郎 (400)
- 田中頼三 (401) 野村 靖 (404) 林 勇藏 (406) 松村昶子 (408) 山下玄良 (409) 吉富簡一 (412)

名所旧跡

- 大曲り (416) ○周布公園 (416) ○矢原の一等水準点 (417) ○阿弥陀堂跡 (417) ○しらべの森 (418) ○一里塚 (418)
- 矢原河川公園 (419) ○朝田墳墓群公園 (419) ○山伏さま (419) ○王子の森 (420) ○大乘妙典宝塔 (420) ○関屋 (421)
- 潮境 (421) ○高場山 (422) ○朝田川のホタル (422) ○馬庭の大岩 (423) ○阿仙原の石鍋 (423) ○夜泣き岩 (424)

年 表

参考文献

あとがき